目安箱160

中国人留学生 ③

さて、一九〇五年(明治三十八年)の十一月初め、文部省は「清国人ヲ入学セシムル公私立学校ニ関スル規程」、通称「清国留学生取締規則」なるものを公布する。その内容は、日本にいる留学生の、過去の経歴から現在の生活状態の全体にわたってを監督官庁が把握して、何か不都合なところがあれば本国に送り返してしまうというものである。

　これは、清朝政府が、前回で書いたような留学生の革命化に手を焼いて、また、「留学生」という名で一括されながらその実は、正真正銘の革命家が、本国にもっとも近いこの日本という国を後方基地化するのに業を煮やして、日本政府に働きかけてやった法的規制である。つまりこの規則の主体は清国にある。だが、それは日本にとっても不必要なものではなかった。実際問題として、留学生の革命運動と日本の運動が交流するような事態は、なんとしても叩きつぶさねばならなかったからだ。そして現実に、日本の革命家と中国の革命家の交流は、いまよりはるかに密接だったのであり、その一端は景梅九が書いた『留日回顧』(平凡社東洋文庫)に現われている。

　だが、それはそれとして、「清国留学生取締規則」が十一月末になって実質的に動き出すと、留学生は反対運動に立ち上る。十二月初めにはストライキに入る学校が出はじめ、五日には富士見楼で全体会議が開かれ、翌六日から全面的なストライキになる。この富士見楼の会議には、実践女学校から、留学生を代表して秋瑾がやってきて大演説をぶつ。一説によれば、彼女はこのとき、壇上に短刀を突き立てて熱弁をふるったというが、真偽のほどはわからない。だが、彼女は、その写真に抜き放った短刀を持ってポーズをとったほどに短刀を好んでいたから、そうであったとしても不思議はない。また竹内実は、彼女の持っていた短刀は、魯迅が同郷の彼女に贈ったものではないかという仮説をたてているが、事実はどうあれ、話としてはそのほうがロマンチックでおもしろい。しかし、このとき魯迅は仙台にいて東京の騒ぎを遠くから眺めていた。ただ、おそらくは、例の幻燈を、はしゃぎまくる日本人学生に混じって見るという経験は、このときすでにしていただろうが。

　だが、わたしがそこで触れるのは秋瑾のことでもなく魯迅でもなく、湖南生まれの陳天華のことである。

　宋教仁――彼もまた革命家で、辛亥革命後の一九一三年に袁世凱の刺客によって暗殺された――の回想によると、陳天華は、留学生たちが取締規則に対して抗議行動を始めたときには、ほとんどなんの動きも見せなかったという。いたずらに空言をもって人を蹶起させるべきではないというのが、陳天華の考えだったようである。『民報』で健筆をふるっているところから考えれば、少しく矛盾するようでもあるが、あるいは取締規則には主たる問題はないと見ていたのかもしれない。また、前年に長沙で武装蜂起を企てて失敗し、また日本にもどってきたという彼の行動の軌跡から考えれば、空言ではなく単純な行為こそと思っていたのかもしれない。しかし彼は、十二月七日に至って急展開する。

　七日、同宿のものは、君が筆をとって夜半まで文章を書いているのを見た、翌日、あさ起きて食事をすませ、外出した……という意味のことを宋教仁は書いているが、外出したまま姿を消した陳天華は、八日夜、死体となって大森海岸に打ちあげられたのである。自殺したのだ。七日

付の東京朝日新聞に出ていた四つの文字に怒って、である。

朝日新聞の記事というのは、取締規則に対する留学生の抗議行動、とくに、その同盟休校を評したもので、そこには、今度の「清国学生」の行為は、「清国人の特有性なる放縦卑劣の意志」から出たものだと書かれていたのだ。

中国人留学生の行動を報じたこのころの新聞は、「二六新聞」を唯一の例外として、みな同じように差別的な調子で書かれているが、なかでも東京朝日がもっとも露骨であり、その頂点が「放縦卑劣」の四文字ということができる。そこには、日清戦争以後あらわになってきた社会的気分としての支那蔑視、排外民族主義の文字化――私的な呟きの公然化が見られるであろう。いわば、文字のテロルである。陳天華は、これに生身で応えたのである。

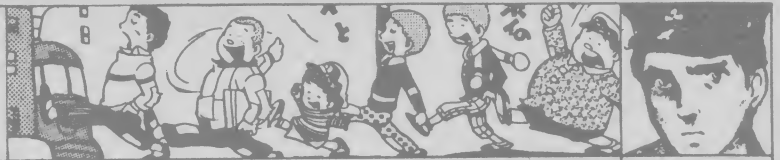
彼の行為をたんなる抗議の自殺ととるのは当らない。遺書でも明らかなように、陳天華は、「放縦卑劣」ということばがヒドイといって死んでるのではないからだ。むしろそのことばを自分に引き寄せたところで、現在ならびに将来の中国人に向かって、そのことばと反対の生を生きるように、そのための記念として死んでいるのだ。ちょうど、魯迅が、幻燈事件をあくまでも中国人自身のこととして引き受けてしまったと同じように、である。ここでは、日本人は加害者にすらなり得なかったのである。その行為は決して誰からも罰せられることなく、ただその状態を罰として「進歩」し続けるしかなかったのだ。そしてその「進歩」の歴史のなかで、日本では陳天華は忘れられたのである。いや、もっとも魯迅ですら、十分に記憶されてきたとはいい難いが。

ところで、わたしは、日本と中国の国交が回復された当時、しばしばこの陳天華のことを語った。国交回復で、日清戦争以来の日中の関係は一応ピリオドを打たれたと、中国人がいうのは勝手だが、こちらはそういうわけにはいかないぞ、というのが、わたしの考えだったのだ。陳天華は、早々と革命家としての生を、文字通り命を革(あらた)める行為として貫徹させてしまったが、こちらは相変らず、同じ状態の延長上にいる、というのがわたしのいいたいことだったのだ。それは、友好論者のいうような、日本と中国の、加害―被害の関係ではなく、友革命対革命という関係で、反革命の祖国・日本は変ってはいないということである。だからそのなかに、陳天華をどう置くかということは、彼の死を反転させて、どうこちらで引き取るかということとして明確だったともいえよう。

だが、国交回復から友好条約成立という過程で、事態は変わってしまった。こちらが変わったわけではないが、向うが、毛沢東の死と文化大革命の敗北のなかで、民族というもの、漠然とナショナルというものの位相が変わってしまったのである。簡単にいえば日本対中国という軸はほとんど無意味になってしまったのである。国交回復のときにはまだしも、国家間のことはそれでいいとしても、民族としてはそうはいかないだろうというい方があり得たのが、いまではそれも無効になったのだ。

このことは、日本における中国研究を根底から揺さぶらずにはいないはずだ、とわたしは思う。漠然とした思い入れなどはすべて空中分解するはずである。いや、事態はすでにそうなっていて、だからいま、保守派の中国研究者がはしゃいでいるわけだし、大多数の研究者が、現状に引き寄せられて、みずからの過去の言説をなしくずしに裏切っているわけだが、むろんそんなことはたいした問題ではない。問題は、竹内好をどう読みなおすか、ということである。「方法としてのアジア」ということが成立するかどうか、ということである。

むろん、それは、論理としては成立する。しかし、そこから、魯迅を中国民族の一典型として、民族と連続的にとらえていた、竹内好のすぐれてユニークな視角は、改めて洗い直す必要があるはずだ。魯迅にとって民族が重要な契機であったのは確かだが、そこから民族としての中国と日本を照し出すことは、具体的な差異を問題にするのではない限りほとんど意味がないということである。陳天華のことでいえば、それを否定媒介とすることは、もうひとつ別な角度を用意しない限り無効であろうと思うのである。いいかえれば、陳天華のときは、「放縦卑劣」を民族に引き寄せることで革命であり得たものが、いまでは、まったく違うということである。そして、いまでは本当に「放縦卑劣」であることが必要なのだ。

上野昂志

振替東京０ －135477

物一覧表

現代漫画家自選シリーズ 〈〒各200〉

風っ子 永島慎二 ¥600
永島慎二が謳いあげた抒情マンガの決定版！

わら草紙 勝又進 ¥600
農村の風情を背景に人の世のはかなさを描く

腹笑死 黒鉄ヒロシ ¥480
あの黒鉄ヒロシが読者にさらすアレとソレ！

ホンダラ部落 砂川しげひさ ¥480
飄々とした描線にのせて贈るナンセンスの極地

鬼面石 つげ義春 ¥600
「ねじ式」の世界への旅立ちを告知する秀作選

仕末妻 平田弘史 ¥480
平田弘史が哀歓をこめて描く血まみれの武士道

男一発 辰巳ヨシヒロ ¥480
辰巳作品の根底に漂う無気味な亡霊を探り出す

怪人二重面相 高信太郎 ¥480
これぞ驚異のゴロ合わせ高信マンガの大行進!!

日本チャンバラ伝 高信太郎 ¥600
血湧き肉おどる、コーシン・コーダン

岩本武蔵 岩本久則 ¥480
不条理とアルセンス二刀流宮本ならぬ岩本武蔵

乱華抄 上村一夫 ¥600
青い季節は哀しくて、汪乱殺子にしのび泣き

おえんの恋 池上遼一 ¥480
炎と化した江戸の町、女が一人情炎に燃え盛る

蒼き狼の咆哮 佐藤まさあき ¥480
19才は死刑にならない都会を彷徨する殺人者達

マタギ列伝 矢口高雄
奥羽の山脈奥深く展開される狩人たちと野性動物のドラマ・大自然を力強く描き続ける矢口高雄がおくる話題の大河ロマン
巻の一 ¥600 巻の二 ¥600 巻の三 ¥580
巻の四 ¥580 巻の五 ¥580 巻の六 ¥680

セックスピア喜劇 はらたいら ¥540
はらたいらオハコのポルノ節が山盛り満載！

よくふか頭巾 永井豪 ¥540
根性と執念の男、よくふか頭巾は今日も行く～

仮弔封血 ¥600
長編大ロマン真崎源氏の誕生なる

狂葬剣記 政岡としや ¥580
のってるマンガ家政岡としやの佳作短篇集

黒衣の妖女 平野仁 ¥580
鬼才平野仁が秀麗なタッチでおくる快作

与太 ほんまりう ¥580
古き良き時代を背景に姉弟愛を描く新鋭秀作

血染めの紋章 かわぐちかいじ 第一部 ¥580 第二部 ¥580
2・26事件を克明に描写する俊英力作

陽炎 青柳裕介 ¥540
デビュー当時の作品で綴る青柳作品の原形

喜劇新思想大系 山上たつひこ
狂気の天才山上たつひこの最高傑作全六点！
正・続・続々・続々々 各¥580

現代漫画論集 ¥1200 〒160
石子順造・梶井純・菊地浅次郎・権藤晋 共著
幻の評論雑誌『漫画主義』に発表された論稿を収録。漫画評論の原点を成す論文集。

つげ義春の世界 ¥1200 〒160
赤瀬川原平・唐十郎・鈴木志郎康・吉増剛造 他共著
つげ義春の魅力を徹底的に解剖した、16名の豪華メンバーによる評論集成

林静一作品集 ¥1600 〒200
マンガにアニメに異彩を放つ林静一のすべて！

つげ義春作品集 ¥3000 〒280
映画、演劇、小説、詩の分野にまで強烈な衝撃を与えたつげマンガの集大成。

水木しげる作品集 ¥1000 〒240
むなしさをもってあらゆる分野の価値観を爆破する水木マンガ

〒101 千代田区神田神保町1の62

青林堂出版

青林傑作シリーズ

各¥1200〈〒各200〉

①②フーテン 上巻・下巻
永島慎二が君に語りかける、青春の喜びと悲しみ。

③寺島町奇譚〔品切〕 滝田ゆう
代表作「寺島町奇譚」シリーズを収めた滝田マンガの結晶。

④黄色い涙〔品切〕 —若者たち—
永島慎二がや〔品切〕い若者たちに送る友情の記。

⑤だめ鬼 村野守美
人生の機微を描いて温かく感動を呼ぶ絶妙の職人芸！

⑥そのばしのぎの犯罪 第一部
永島慎二最新意欲作！

⑦狂人関係 第一部 上村一夫
降る雪に、散る花ビラに舞い惑う、画狂北斎をめぐる鮮烈な人間像

⑧青春相続人
宮谷一彦が現代に問う青春論

⑨花いちもんめ 永島慎二
ナタ政とゆかいな仲間たちがくりひろげる、痛快下町メンコ戦争！

⑩白い伝説
伝説ゆきおんなを描いて、鬼才真崎守がハーンを超える。

⑪狂人関係 第二部 上村一夫
葛飾北斎とめぐる人々のおりなす壮絶なる人間模様

⑫泥沼—どぶだめ
巨匠村野守美がしみじみと人生を物語る、好珠玉短篇集！

⑬港野郎にきをつけろ！
鮮かに甦る、永島慎二初期作品集

⑭親不知讃歌（おやしらずさんか） 松本零士
敷井高志14才、親の知らない世界もあるこれはその親の知らない物語……

⑮狂人関係 第三部
上村一夫の最高傑作「狂人関係」、待望の第三部！

⑯よさこい節
郷里・南国土佐を舞台に、デビュー当時の青柳裕介が描く珠玉短篇集！

⑰秘戯御法 ひぎぎょほう
巨匠村野守美が性の深淵をえぐる!!

⑱おせん
ひたすら漫画に命を燃やし若くして逝った楠勝平珠玉遺作集

⑲狂人関係 第四部 上村一夫
大好評〈狂人関係〉完結編!!

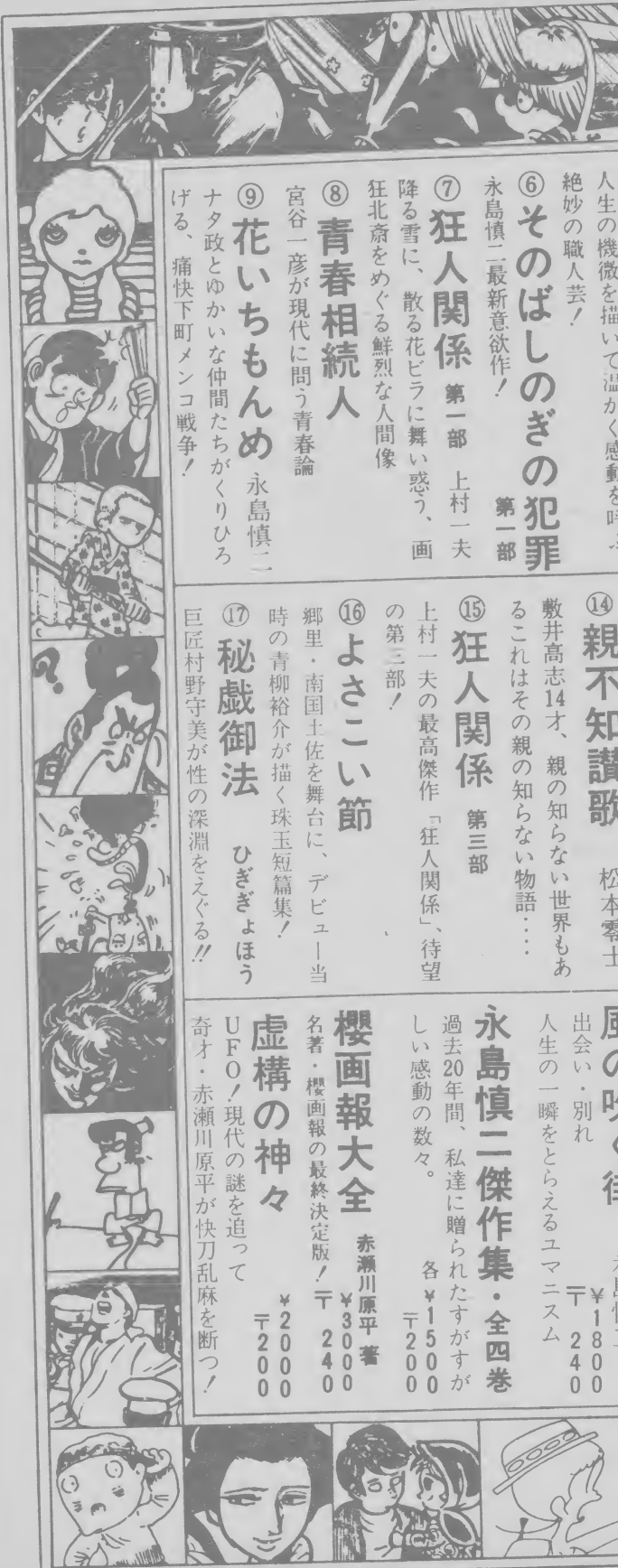
⑳媚薬行 村野守美
欲望に操られる人生、媚薬に託した人の哀れ

㉑そのばしのぎの犯罪 第二部
本誌大好評連載のうちに遂に完結！

風の吹く街 永島慎二 ¥1800 〒240
出会い・別れ
人生の一瞬をとらえるユマニスム

永島慎二傑作集・全四巻 各¥1500 〒200
過去20年間、私達に贈られたすがすがしい感動の数々。

櫻画報大全 赤瀬川原平 著 ¥3000 〒240
名著・櫻画報の最終決定版！

虚構の神々 ¥2000 〒200
UFO！現代の謎を追って
奇才・赤瀬川原平が快刀乱麻を断つ！

少女マンガ誌はいやしい。

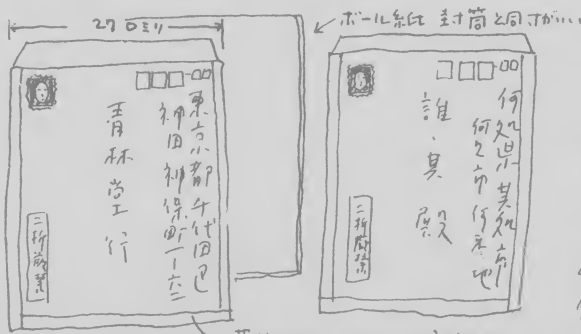
伊藤　潔（小平市）

最近、あっと驚く「リリカ」と「増刊ヤングコミック」の休刊に会い、改めて青林堂の偉大さを認識している次第です。ただ安部慎一さんと宮谷一彦先生の「肉弾人生」を単行本にしてない事を不満とする位いです。さて最近本誌には珍らしい広告主の「ぱふ」という雑誌や所謂三流エロ雑誌、少女マンガ等について熱のあるコトバがやりとりされています、その「熱い」所を持って、ある程度肯定する人もいます。私もそこを否定する気持ちはありませんが、同じ事を言っても無駄なので、ちょっとケチを一言。「ぱふ」を例にとると、読者の投書どころか普通のページにも話し言葉が目立つ、そして読めば判るが、その理由は、話す様にしか書けないからだ。結果として思いつき、内容の薄さ、独断ばかりが目につく。中央公論の特集の「タイトル」が気にいら「ない」とか、大島弓子より樹村みのりの方が秀れている理由は「ない」とか、「AはBでない」という論理は曖昧にしか物事を決定出来ない。「AだからBはCである。」という論理が私の見た限りではひとつも見当らない。否、本誌でさえ、私の投書を論理上だけに限っても理解する人がいなかった。ヤボを承知で繰り返し簡単に述べれば次の通りである。①六十年代のエネルギーを政治的にしろ非政治的にしろ作品を作る課程において使わずにいられなかった時代を最盛期とした「ガロ」は、今後どのような方法論やマンガ論を持ったら良いのか判らない時期にある。そこで、②鶴見俊輔さんの「限界芸術論」の言葉を借りれば「純粋芸術」か「大衆芸術」小説で言えば「純文学」か「大衆小説」の選択を歴史の浅い漫画では決定出来ない。しかし、後者の方の試みはすでに他の雑誌において試みられているので「ガロ」は前者の道を試みてはどうか。この②はすでに鈴木翁二さんの新刊の歌い文句に「純文学の漫画」とあるのを示すまでもなく、そのような傾向がガロにありガロにしかないという理由しかない。話は少しズレたが少女マンガを少し語れば「ぱふ」で人気のある「La

ガロ投稿作家の諸氏へ

ガロへ投稿するに当って留意すべきこと。

① 原稿料が出ない
これははなはだ遺憾の事態ですが事実です
正常化へ努力しているところですが、もう少し時間がかかる見込み。これは大事の事ですからよくよく考えてから投稿して下さい。

② 返却用封筒（切手貼付）の入っていないものは返却しない。（下記のようにして下さい。）

③ 原稿は必らずタテ27.3cmヨコ18.2cm（これは仕上りの1.2倍です）の寸法で

④ 墨汁または製図用インク（黒）を使用し中間の調子を必要とする場合はスクリーントーンを貼り込む。（うす墨によるボカシは不可）

⑤ セリフやナレーション（これをあわせてネームという）は鉛筆で読みやすく書く

⑥ 送り先は「東京都千代田区神田神保町1ー62 青林堂」

⑦ なぜ投稿するのかもう一度考える事。

編集部では今までにない画期的に面白い作品が欲しい。ただし「今までにない」「画期的な」という部分のみをあてこんだ作品は概して「面白くない」自分が感動したマンガ、好きなマンガが何故感動させるのか好きにさせるのかをもう一度考えてみることをおすすめする。

La」にしろ「別冊少女コミック」にしろ、凡百の少女マンガ誌、もっと言って大半の女性誌は女性差別的、すなわち封建的な雑誌である。つまりくだらないし、いやしい。又青年マンガ誌を、少年マンガ誌と少女マンガ誌の上におくにしろ、少年マンガ誌の上におくにしろ大人の女用のマンガはない、そしてその中味は「女の子にしか解らないもの」だという。私にもそれが「どれ」かは判るが理解は出来ないし、くだらぬと思う、あんな物を大事にするのは自分で自分を差別する様なものである。「女なら誰でも判るもの」などとファッション的なものは男尊女卑の建物である。

通信欄

●20年代後半の手塚掲載誌数冊、ぼくら・ようこシリーズ（売可）、少年王者6冊揃、まんが太閤記、手塚付録を白土（B6）他有名作家の単付、鉄人付録、少女クラブ、漫少S23〜5と交換。50円切手同封の事。〒662西宮市獅子ヶ口町10〜6　〈津田毅〉

●ガロ'75年5月号または、サスケ（集英社刊）で1、14巻以外をお持ちの方原価くらいで譲っていただきたいのですが、くわしくは御連絡ください。〒910福井県福井市豊島2—3—8（0776）26・2825　〈桶屋圭吾〉

●青柳裕介「鬼やん」全巻、適価にてお譲りください。〒227横浜市緑区長津田町136・74　〈久武俊一〉

●次の本がありましたらお知らせ下さい。甲賀武芸帳（白土）何巻でも（B6）ロケットマン（水木）兎月書房（B6）漫画少年（学童社）何冊でも赤銅鈴之助（B6）おもしろブックその他のB6版昔のマンガ本〒537大阪市東成区深江南3丁目16の23（06）981・5201.　〈もっきりや〉

ゴシップ

●関西方面では**川崎ゆきお**氏のアノ「猟奇王」が映画化された!! 資料が送られて来たのでショーカイすると。『リョーキウォーズ・実録猟奇王ノ神戸慕情篇』監督＝**赤土輪**・出演＝**ミスターホジ・元木常二・羽生奈多理・田中みどり・川崎ゆきお・淀川さんぽ**。出演した**川崎ゆきお**氏によると『この映画は、決して、うまい技術で作ったものでも、また、ものすごい考えを基にして作ったものでもない。どちらかと云うと見ていて、ヒヤヒヤするほどぶさいくに下手に作ってある。』そうだ。上映会は3月18日(日)午後2時／5時半（おもしろイベントは4時半〜）料金400円子供100円場所、垂水年金会館（国鉄垂水駅東口下東、国道2号線東へ10分）問い合せ078・922・7476幻活動写真商会。

●さてまた映画の話題、本誌でデビューしたイラストレーター、歌手、天才の**泉谷しげる**氏が、みづから、監督・主演・音楽した『拳銃殺陣師・第一部・死闘篇』を完成!! この映画は、『新しい映像とコミック感覚の暴力と笑いがいっぱいの超娯楽大作!!』だそうで、アクションシーンにはとくに力を入れていて、戦闘シーンにはアノ**土方鉄人**を隊長とする騒動社の強力メンバーが出演しているぞ。主な出演者は、**石黒ケイ、佐藤B作、加藤和彦、安井かずみ、土方鉄人、飯島洋一、森永博志、志賀勝**、完成記念プレミアムショーは3月11日(日)5時半、郵便貯金ホール料金A千円B八百円出演、**泉谷しげる、石黒ケイ、夏水リセ**也問い合せはスタフギャング496・1329パパソングス400・8465、ロードショー公開は4月1日(日)〜4月下旬、四谷イメージフォーラム（地下鉄四谷3

丁目下車）当日八百円前売六百円お問合せイメージフォーラム358・1983。

●ぼくら自身のまんが論を書きつづけて来た**村上知彦**氏の新刊『黄昏通信（トワイライト・タイムス）』ブロンズ社（930円）が刊行された、この本は『同時代まんがのために』書きつづけて『もう、もどれなくなりそうォ』になってしまった**村上**氏の熱いメッセージであります。内容は七〇年代グラフィティ、青年まんがの栄光と悲惨、少女まんがのゆくえ、同人誌はいまどこを飛ぶか、作家別少女まんが論、さらに「内的風景」の超克〈ガロ〉的なるものをめぐって、と盛りだくさん特に「ガロ」的なるものをめぐっては、24ページにもわたって展開されており、コレはコノ本の厚サ14ミリのうちの2ミリをもしめている、コレは**村上**氏とこの本の偉大さを物語っている。すべてのガロ読者はモチロン、今立ち読をしている君も毎月タダでもらっている評論家の先生もみんな買わねばならない本です。

●先月号は合併号だったので1月12日から28日マデ中国に行って来ました。主なコースは広州↓南寧↓昆明↓北京で、各都市をだいたい4泊でゆっくり回りました。中国で感心したのは、みんなが、**マジメ**なことですが、**オドロイタ**のは公衆トイレであります。それから昆明という所では、日本人が今年になって入れるように成ったとかで、私達のことがめづらしいらしく、どこえ行っても、黒山の人だかり、ピンクレディーや矢沢永吉の気分、ちょつとした**スーパースター**ではありました。

（和博記）